

琉球・沖縄 年中行事 **Q&A** ？なんでも！

骨壺を新しい墓に移すことについて



●Answer
 沖縄市・コザ山 球陽寺 前任職
 帰依 龍照(きえりゅうしょう)



今あるお墓には、祖母、父母の骨壺を納めています。しかし、それぞれの位牌(トートローメー)は別々の仏壇に祀られています。長男である私の仏壇には父母、次男は祖母、そして祖父の弟夫婦の位牌は、その子孫が持つ一門墓(門中墓)ではなく、遠くて不便な場所にありますが。仏壇に祀られている人数とお墓にいる人数を合わせた方がいいと聞いたこともあり、現在の墓から、父母の骨壺だけを新しい墓に移したいと考えています。どうしたらいいのでしょうか？

(匿名さん)



ご質問にある「長男である私の仏壇には父母、次男は祖父」という言葉から想像すると、匿名さんのお父さまは長男(嫡子)ではなく、次男以降のお立場なのでしょう。沖縄では、男性方の家系を畏敬する慣習があり、長男が後継者と見なされますので、多くの場合、長男は両親と同じ位牌で供養するというしきたりが伝わっているからです。

次男以降の男性は、グソー(後生)でも両親から分家

して、ムートウヤ(本家)の繁栄をサポートするという考え方があります。兄弟を同一の位牌で祀るのは「チヨデーカサバイ(兄弟重合)」という禁忌に抵触するとされ、一般的には、次男以降の方は、長男とは別の位牌で祀られます。

次男以降の方の位牌は、その長男が代々供養していくことになり、匿名さんは、次男以降であるお父さまの位牌を持たれておられるのだと思います。そして本来、匿名さんのお父さまのお兄さま(長男)が持つべき祖父の位牌を、何らかの理由で弟さんが供養されているのでしょうか。このような位牌の祀り方を「アジクワイグワンス(預かり位牌、または預かり元祖)」といい、本来、継承するべき人(養子など)が見つかるまで一時的に祀っているという考え方があります。

また、「仏壇に祀られている人数とお墓にいる人数を合わせた方がいい」という考え方は、究極の理想ですね。ウヤファーフジ(御先祖)をととても大切に、沖縄の慣習として、また、人数確認として、適切な判断かと思えます。

しかし、沖縄では、おおむね満7歳未満の幼児が亡くなった場合、お墓に納骨

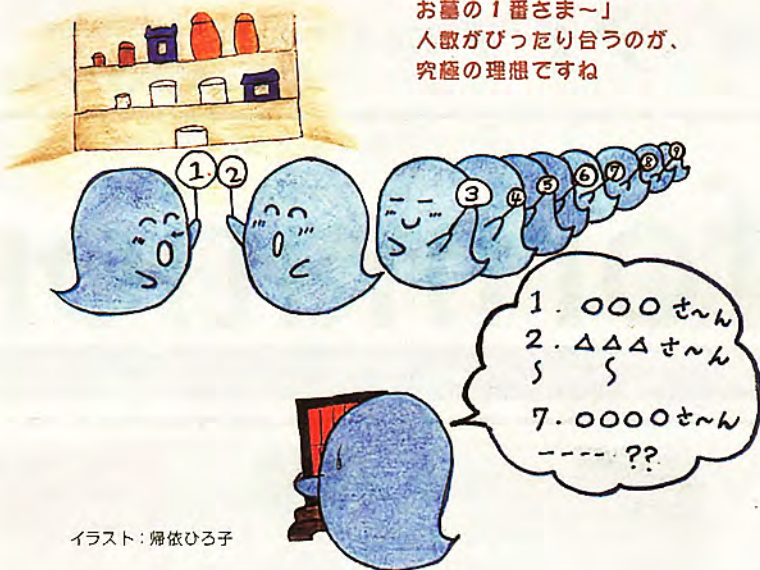
しても、位牌には名前を記載しない(または2枚めの札の裏に記載する)ことがあります。このような理由から、位牌の人数とお墓にいる人数が一致しない場合もあり得ます。ご先祖さまの人数について疑問がある場合、位牌よりも、遺骨の人数が優先されるといふ沖縄固有の慣習は、このような事例が元になっていると思われまます。

今回の解答としましては、ご両親の骨壺を新しいお墓に移し、仏壇の位牌の人数と一致させることは、沖縄の民間儀礼としても、理にかなっていると思います。近親者で相談した上で、安

心してお話を進めていかれて差し支えないかと思えます。

沖縄には、一般に父系の血筋・血縁を重視する「シジ」という考え方があります。このことからすると、ご縁があれば、おじいさまの弟夫婦の骨壺も、いずれは別のお墓に移す話が出るかもしれないですね。ただ、この場合は、その子孫が施主になりますので、すべてをお任せした方が良いでしょう。近々、便利な場所に新しいお墓をつくり、行事ごとにお墓に向くことで、とてもいい親孝行になりそうですね。

「トートローメーの1番さま〜、お墓の1番さま〜」
 人数がびつたり合うのが、究極の理想ですね



イラスト：帰依ひろ子

帰依 龍照 1968年岡山県出身(満47歳) / 学歴：岡山大学大学院博士課程単位取得・中央仏教学院研究科卒 / 専門分野：哲学(宗教哲学) / 沖縄県内で年間多数の住宅起工式(地鎮祭)を担当しつつ、小学校〜大学まで、いじめ・不登校・進学・就職に関する講演活動を行う / 著書：「琉球・沖縄 儀式・法要事典 作法・心得編」県内有名書店にて発売中 / 最近、長男に在職の家督を譲り、前任職(ぜんじゅうしょく)となりました

【質問をお寄せください】 年中行事やしきたりに関して、日ごろから疑問に思っていることや、質問をお寄せください。随時、紙面で紹介する予定です。「かふう編集室 年中行事Q&A係」郵送、FAX、メールで受付。宛先は26面をご覧ください。